

目標新たに 練習試合白熱

高校野球2020

夏の高校野球選手権大会に代わる夏季北海道大会に向けて、道内ではこの週末に各地で練習試合が行われた。甲子園がない異例の夏になったが、選手たちは新たな目標を見据え、数少ない実戦を大切に準備を進めている。応援する生徒や地元の人たちも、久しぶりの球音に胸を躍らせていた。

球音・吹奏楽 歓喜響く

浦河―鶴川

浦河(浦河町)の野球グラウンドでは27日、浦河と鶴川の練習試合が行われた。野球部を応援しようと両校の吹奏楽団員計44人も応援に駆けつけた。

午前10時、曇天のなか試合が始まると、右翼側と左

翼側に分かれた鶴川と浦河の吹奏楽団からファンファーレが鳴り響いた。その音を聞いて、グラウンド近くを通りかかった人は足を止め、沿道からは「待っていました」と歓声があがった。

白球を追う選手のひたむきなプレーと吹奏楽の明るい音色が、地元の人たちを



吹奏楽の応援を背にプレーする浦河・山田陽斗主将(浦河町)

魅了。試合は両チームに本塁打が出るなど接戦となったが、7回裏に鶴川が突き放し4-2で勝利した。

夏季大会は新型コロナウイルス対策で無観客試合となるため、吹奏楽による応援はできない。今回の応援は、浦河の吹奏楽局の3年生が「練習試合でいいから、野球部を応援させてほしい」と野球部へ提案したことがきっかけだった。鶴川も同じ思いで、学校側は楽器の距離を離すことを条件に両校の参加を認めた。

鶴川の鈴木楓香さん(3年)は「夏に応援できなくて正直悔しい。だからこそ、今日応援できたことは当たり前じゃなくて、貴重な一日だった」と話した。

浦河の山田陽斗主将(同)は「この試合を実現させるために色々な人が関わってくれた」と感謝の気持ちで打席に立った。快音を響かせることはできなかったが、「コロナで部活を引退した人もいる。応援があったら野球ができていいことに感謝し、夏の大会に挑みたい」と話した。

(原田達矢)